

令和7年度 印西市家庭教育学級だより

かてきょう通信 11月号

「子育ては自分育て」～笑顔の子育てのために～

読書の秋 本好きな子に育てたい

11月。風は少し冷たくなってきましたが、大気は澄み渡り、美しい紅葉が見られ、収穫の季節でもあります。この時期を表す言葉に「錦秋」があります。木々が色づき錦の織物のように美しい様が見られることを表しているそうです。

さて、秋は気候的に様々な活動に適していると言われています。「読書の秋」もその一つです。全国学校図書館協議会が行っている「学校読書調査」によると、2024年5月1か月間の平均読書冊数は、小学生が13.8冊(過去最高)、中学生は4.1冊とのことです。また、不読者(5月1か月に間に読んだ本が0冊の児童生徒)の割合は、小学生が8.5%、中学生が23.4%とあります。

「子どもの読書離れ」と言われますが、そうではないという意見もあるようです。スマートフォンや家庭ゲーム機の普及により、「本を読まない」と思われがちですが、30年前(1994年)の同調査では1か月間の平均読書冊数は、小学生が6.7冊、中学生は1.7冊で現代より低い数値です。むしろ、「読書離れ」は、子どもよりも大人の方が心配であるとも言われています。

読書には様々な効果があります。主なものは、

- 1 読解力の向上:文章の内容を正しく理解したり、場面の様子や登場人物の気持ちを想像したりする力が向上します。
- 2 語彙力の向上:言葉に関する知識が増えて、自分の気持ちや周囲の様子などを表現する力が向上します。
- 3 集中力の向上:読書をしている時間は集中して文字を追っています。その経験の繰り返しにより学習や生活の場面で集中する力が向上します。
- 4 リラックス効果:読書を楽しんでいると、自然とストレスが解消されていくといわれています。

子どもは、これらの効果を意識しながら読書することはまずないでしょう。楽しみながら自然と力量が向上することに良さがあると思います。

では、子どもに読書習慣を身に付けさせるにはどうしたらよいのでしょうか。やってはいけないことは、効果があるからと言って「読まなければならない」と無理強いさせることです。子どもが「読書は楽しい」と感じて行うことが重要でしょう。そのためには、身近に本がある環境づくりが大切とのことです。「ご家庭に本がある。」または、「図書館や書店に家族で赴く。」といった生活環境を取り入れてはいかかでしょうか。また、私たち大人が子どもの前で本を読む姿を見せることも大切に思います。子どもは親の姿を見て学びます。

賛否両論はあるでしょうが、マンガやオーディオブックも効果があるという意見もあります。

余暇にスマホを手にとってしまう習慣は抜けづらいかも知れません。しかし、私たち大人の習慣が子どもに及ぼす影響は大きいものです。まずは、自分自身も生活習慣を見直したいと思います。

◇お問い合わせ◇

印西市教育委員会 教育部 生涯学習課 推進係 (担当 宮崎・関)

【電話】0476-33-4713 【FAX】0476-42-0033

★「かてきょう通信」は、印西市ホームページでもご覧いただけます。

印西市ホームページにて「かてきょう通信」と検索してください。



子育ては自分育て